

# 「 $\pi$ は無理数である」 2010年の証明

この小論は Li. Zhou, and Lubomir. Markov が 2010 年に発表された論文<sup>1)</sup> を基にして「 $\pi$ は無理数である」という証明を高校生が読める形に整えたものです。  
3つの部分に分けて、解説する。

**Part - 1**

関数  $f_n(x) = \frac{(\pi x - x^2)^n}{n!}$  ( $n = 0, 1, 2, 3, \dots$ ) について

この関数  $f_n(x)$  には  $f_0(x) = \frac{(\pi x - x^2)^0}{0!} = 1$ ,  $f_1(x) = \frac{(\pi x - x^2)^1}{1!} = \pi x - x^2$

であり、次の値をとることを確認しておく。

$$f_n(0) = f_n(\pi) = 0 \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots)$$

さて、 $f_n(x)$ ,  $f_{n-1}(x)$ ,  $f_{n-2}(x)$  ( $n \geq 2$ ) の関係を調べると、

$$f_n(x) = \frac{\pi x - x^2}{n} \cdot \frac{(\pi x - x^2)^{n-1}}{(n-1)!} = \frac{\pi x - x^2}{n} f_{n-1}(x)$$

$$f_{n-1}(x) = \frac{\pi x - x^2}{n-1} f_{n-2}(x) \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

である。また、微分に関して、次の等式を得る。

$$f_n'(x) = \frac{n(\pi - 2x)(\pi x - x^2)^{n-1}}{n!} = (\pi - 2x) \frac{(\pi x - x^2)^{n-1}}{(n-1)!} = (\pi - 2x)f_{n-1}(x)$$

$$f_{n-1}'(x) = (\pi - 2x)f_{n-2}(x)$$

第1の等式をもう一度微分し、第2の等式を利用することで、次の等式を得る。

$$f_n''(x) = -2f_{n-1}(x) + (\pi - 2x)f_{n-1}'(x) = -2f_{n-1}(x) + (\pi - 2x)^2 f_{n-2}(x) \dots\dots \textcircled{2}$$

**Part - 2**

定積分  $I_n = \int_0^\pi f_n(x) \sin x dx$  ( $n = 0, 1, 2, 3, \dots$ ) について

この値も具体的に求めてみる。 (注意、          の部分は0である。)

$$I_0 = \int_0^\pi f_0(x) \sin x dx = \int_0^\pi \sin x dx = [-\cos x]_0^\pi = 2$$

$$I_1 = \int_0^\pi (\pi x - x^2) \sin x dx = \underbrace{\left[ (\pi x - x^2)(-\cos x) \right]_0^\pi}_{=0} + \int_0^\pi (\pi - 2x) \cos x dx$$

$$= \int_0^\pi (\pi - 2x) \cos x dx = \underbrace{\left[ (\pi - 2x) \sin x \right]_0^\pi}_{=0} + 2 \int_0^\pi \sin x dx = 2 \int_0^\pi \sin x dx = 4$$

次に、数列  $\{I_n\}$  の漸化式を調べてみよう。

$$\begin{aligned} I_n &= \int_0^\pi f_n(x) \sin x \, dx = \underbrace{[f_n(x)(-\cos x)]_0^\pi}_{\text{②}} + \int_0^\pi f_n'(x) \cos x \, dx \\ &= \int_0^\pi f_n'(x) \cos x \, dx = \underbrace{[f_n'(x) \sin x]_0^\pi}_{\text{①}} - \int_0^\pi f_n''(x) \sin x \, dx = -\int_0^\pi f_n''(x) \sin x \, dx \end{aligned}$$

ここで、②および①を用いると、

$$\begin{aligned} I_n &= -\int_0^\pi \left\{ -2f_{n-1}(x) + (\pi - 2x)^2 f_{n-2}(x) \right\} \sin x \, dx \\ &= \int_0^\pi \left\{ 2f_{n-1}(x) - \pi^2 f_{n-2}(x) + 4(\pi x - x^2) f_{n-2}(x) \right\} \sin x \, dx \\ &= 2 \int_0^\pi f_{n-1}(x) \sin x \, dx - \pi^2 \int_0^\pi f_{n-2}(x) \sin x \, dx + 4 \int_0^\pi (n-1) f_{n-1}(x) \sin x \, dx \\ &= 2I_{n-1} - \pi^2 I_{n-2} + 4(n-1)I_{n-1} = (4n-2)I_{n-1} - \pi^2 I_{n-2} \quad (n \geq 2) \end{aligned}$$

となり、数列  $\{I_n\}$  の漸化式を得る。これを用いて、 $n=2,3,4$  について  $I_n$  の値を求める。

$$I_2 = (4 \cdot 2 - 2)I_1 - \pi^2 I_0 = 6 \cdot 4 - \pi^2 \cdot 2 = 24 - 2\pi^2$$

$$I_3 = (4 \cdot 3 - 2)I_2 - \pi^2 I_1 = 10(24 - 2\pi^2) - \pi^2 \cdot 4 = 240 - 24\pi^2$$

$$I_4 = (4 \cdot 4 - 2)I_3 - \pi^2 I_2 = 14(240 - 24\pi^2) - \pi^2(24 - 2\pi^2) = 3360 - 360\pi^2 + 2\pi^4$$

この結果から「 $I_n$  は  $\pi$  の整係数の多項式として表され、その次数は高々  $n$  である。」と推定できる。以下、このことを数学的帰納法で示す。

(I)  $n=0,1$  済み。(II)  $n$  未満については成立していると仮定する。

$$I_n = (4n-2)I_{n-1} - \pi^2 I_{n-2}$$

の前の項  $(4n-2)I_{n-1}$  は高々  $n-1$  次の  $\pi$  の整係数の多項式であり、後ろの項  $\pi^2 I_{n-2}$  は高々  $n$  次の  $\pi$  の整係数の多項式である。よって、 $I_n$  は高々  $n$  次の  $\pi$  の整係数の多項式である。

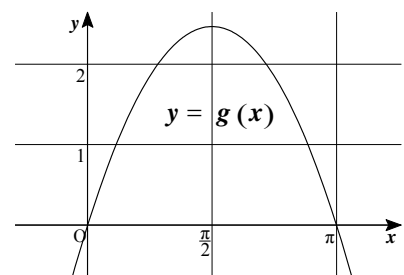
### Part-3

$\pi$  は無理数である

[証明] 背理法で示す。以下、 $\pi = \frac{a}{b}$  (ただし、 $a, b$  は自然数) とする。

(A) 「十分大きな自然数  $n$  に対して、 $0 < b^n I_n < 1$ 」となることを示す。まず、「 $n \rightarrow \infty$  のとき、 $b^n I_n \rightarrow 0$ 」を示す。

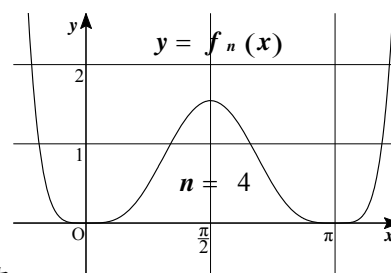
$$g(x) = \pi x - x^2 \text{ とおくと、 } g(x) = -\left(x - \frac{\pi}{2}\right)^2 + \frac{\pi^2}{4} \text{ である。}$$



区間 $[0, \pi]$ で $0 \leq g(x)$ であるが $g(x)$ は恒等的に $0$ ではない。

さて、 $0 \leq g(x) \leq \frac{\pi^2}{4}$ なので、

$$0 \leq f_n(x) = \frac{\{g(x)\}^n}{n!} \leq \left(\frac{\pi^2}{4}\right)^n \cdot \frac{1}{n!}$$



であ。また区間 $[0, \pi]$ で、 $0 \leq \sin x \leq 1$ であることを考え合わせ、

この関数 $f_n(x)\sin x$ を区間 $[0, \pi]$ で定積分し、次の不等式を得る。

$$0 < I_n \leq \pi \times \left(\frac{\pi^2}{4}\right)^n \cdot \frac{1}{n!}$$

よって、 $n \rightarrow \infty$  とすると、

$$0 < b^n I_n \leq b^n \times \frac{a}{b} \cdot \left\{\frac{a^2}{b^2 4}\right\}^n \cdot \frac{1}{n!} = \frac{a}{b} \left\{\frac{a^2}{4b}\right\}^n \cdot \frac{1}{n!} \rightarrow 0 \quad (\text{※注意 参照})$$

なので、 $b^n I_n \rightarrow 0$ を得る。

したがって、十分大きな自然数 $n$ に対して、 $0 < b^n I_n < 1$ となる。

次に、(B)  $b^n I_n$  は、整数である。

$I_n$ は高々 $n$ 次の $\pi$ の多項式であるので、整数の係数 $p_0, p_1, p_2, \dots, p_n$ を持ち、

$$I_n = p_0 + p_1 \pi + p_2 \pi^2 + \dots + p_n \pi^n$$

とかける。 $\pi = \frac{a}{b}$ なので、

$$b^n I_n = p_0 b^n + p_1 a b^{n-1} + p_2 a^2 b^{n-2} + \dots + p_n a^n$$

となり、 $b^n I_n$ は整数である。

いま示した、(A) と (B) は矛盾している。

[証明終り]

以上で、「 $\pi$ は無理数である」ことが証明された。

※(注意)

任意の実数  $a > 0$  に対して、 $n \rightarrow \infty$  のとき  $\frac{a^n}{n!} \rightarrow 0$  である。

[証明]  $0 < a \leq 1$  なら明白。 $2a < m$  となる自然数  $m$  を定める。

いま、十分大きな自然数  $n$  に対して、

$$\begin{aligned}\frac{a^n}{n!} &= \frac{a^m}{m!} \times \frac{a}{m+1} \times \frac{a}{m+2} \times \cdots \times \frac{a}{n} \\ &< \frac{a^m}{m!} \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{2} \times \cdots \times \frac{1}{2} \\ &= \frac{a^m}{m!} \times \left(\frac{1}{2}\right)^{n-m}\end{aligned}$$

となる。

したがって、 $n \rightarrow \infty$  のとき  $\frac{a^n}{n!} \rightarrow 0$  となる。

[証明終り]

---

愛知県立春日井東高等学校 数学科 堀部 和経 (2011/11/12)

1) Li. Zhou, and Lubomir. Markov. Recurrent Proofs of the Irrationality of Certain Trigonometric Values.

The Mathematical Association of America. Monthly 117 April 2010 360-362